

Faculty of Health and Sports Science



GUIDE
BOOK
2024

支え、導き、共に歩む—— 「スポーツ」と「健康」のエキスパートに



スポーツには、トップアスリートが見せる記録や最高の技術を競う世界と子供から高齢者までが楽しむ生涯スポーツとしての二つの側面があります。いま、そのどちらにおいても正しく効果的なトレーニングとサポートのための専門知識と高い技術が求められています。

「人生100年」と言われる時代、健康長寿に対する社会的な意識は、ますます高まりを見せています。QOLの向上に欠くことのできない「スポーツ」や「健康」と、密接な関わりを持つ学問領域に、産学共同研究やフィールドワークを通して科学的にアプローチします。

オリンピックやワールドカップに代表されるように「スポーツ」は、国民に大きな影響を与える存在になりました。これまでの「する」「みる」に加えて、「ささえる」という視点でスポーツを考える時、そこにはマーケティングやマネジメントという学問領域が必要とされます。



《アーチェリー》
上原瑠果

現代社会では、生活の構造的な変容により、かつてないほど「スポーツ」と「健康」に対する関心が高まっています。スポーツを健康増進や生活を充実させる楽しみとして捉える人々が増えてきているのです。そうした時代のニーズに応えるための知識を同志社大学スポーツ健康科学部で学び、健康とスポーツ活動、および、それらを取り巻く社会環境に関わる知見や理論などの「スポーツ健康科学」全般を理解します。広い領域で貢献できる人材の養成を目指しています。



《硬式野球》
真野凜風



《チアリーダー》
富田 萌



《射撃》
吉村和徳

- Policy ————— 01
- Learning ————— 03
- LIVE! ゼミ ————— 05
- 私の同志社ライフ ————— 11
- 施設紹介 ————— 12
- キャリアデザイン ————— 13
- 教員紹介 ————— 15
- 留学・国際交流 ————— 17
- 奨学金・学費・入試情報 ——— 18
- 研究室を訪ねて ————— 19



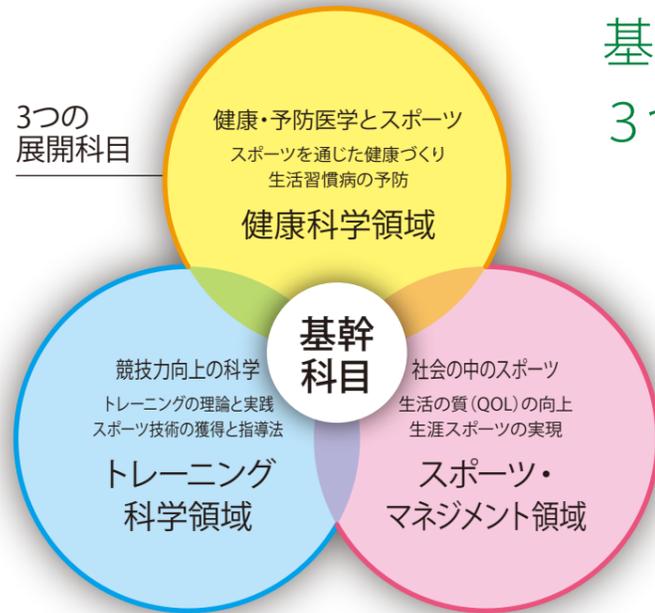
©2022 Doshisha University

学びの地は京田辺キャンパス。
恵まれた学習・研究環境の中
新たな学問領域への探究心は飛躍する。



1986年開校の京田辺キャンパスには、
790,000㎡もの広大な敷地に約9,000人が学生生活を送っています。
最先端の実験設備・機器がそろそろほか、
マルチメディアライブラリーを備えた図書館や
大規模な情報教育設備、40以上のスポーツ競技が
可能な体育施設が完備されています。

3つの
展開科目



基幹科目をベースに 3つの学修領域を多面的に展開。

スポーツ健康科学部では、「健康科学領域」「トレーニング科学領域」「スポーツ・マネジメント領域」という3つの学修領域のいずれかを軸としながらも、複数の領域にわたるフレキシブルな科目選択ができます。さらに、総合大学ならではのメリットを生かして他学部の科目選択も可能です。少人数の指導体制のもと、横断的・複合的な学習でめざす将来へと導きます。

- 少人数制の教育
- 幅広い実験・実習能力を習得する文理融合型科目
- 総合大学だから出来る他学部の科目選択

●カリキュラムは段階的に学べるよう科目ごとに履修年次が定められています。

	1年次～	2年次～	3年次～	4年次
必修基礎科目	●ファースト・イヤー・セミナー ●スポーツ生理学 ●スポーツ健康科学論入門 ●生理学	●基礎実習 2年次の「基礎実習」では、最新スポーツ科学の基礎実験・実習を体験し、3・4年次に演習(ゼミ)で学びたい研究分野を決める準備をしています。		
必修演習科目	学部の専門分野を学ぶ上で核となるこれらの科目でしっかりと基礎を固めます。		●演習Ⅰ ●演習Ⅱ 教員1名に対して学生約10名という徹底した少人数教育を実施。特にゼミには力を入れており、1年次春学期にファースト・イヤー・セミナー、3・4年次に演習(ゼミ)を必修科目として配置し、一人ひとりの学生に目が行き届くきめ細かい教育体制となっています。	●演習Ⅲ ●演習Ⅳ ●卒業研究 A ●卒業研究 B
基幹科目	●健康運動論 ●スポーツ政策論	●公衆衛生学 ●トレーニング論 ●スポーツ運動学 ●スポーツ教育学		
展開科目	●スポーツ機能解剖学 選択科目の幅をもたせ、学生の多様化したニーズに対応できるカリキュラムとなっています。	●生命医学概論 ●人体の構造と機能Ⅰ ●スポーツ医学 A(内科系) ●スポーツ医学 B(外科系) ●生活習慣病概論 ●発育発達と老化 ●栄養学 ●学校保健 ●スポーツ栄養学 ●スポーツ・バイオメカニクス ●コンディショニング論 ●スポーツ心理学 ●スポーツ測定評価論 ●スポーツの原理 ●メンタル・トレーニング論 ●コーチング論 ●スポーツ・マーケティング論 ●障がい者スポーツ論 ●障がい者スポーツ論(応用) ●スポーツ・バイオメカニクス ●スポーツ倫理学 ●スポーツ・トピックスⅠ ●スポーツ・トピックスⅡ ●スポーツ行政論 ●スポーツ組織文化論 ●インターンシップ演習 ●スポーツ健康科学グローバル演習 ●身体運動制御論 ●スポーツ生体ダイナミクス	●ヒトの病理と防御システムⅠ ●リハビリテーション医学 ●スポーツ生化学 ●薬理学 ●精神保健論 ●競技者育成システム論 ●スポーツマッサージ・テーピング論 ●高齢者スポーツ論 ●スポーツ経済学 ●スポーツビジネス論 ●スポーツ人類学 ●スポーツ・メディア論 ●スポーツ・マネジメント論 ●障がい者スポーツ指導論 ●スポーツ健康外国書講読Ⅰ ●スポーツ健康外国書講読Ⅱ ●健康教育学 ●環境生理学 ●スポーツ分子生物学 ●スポーツ健康科学特殊講義 A ●スポーツ健康科学特殊講義 B	
応用科目	●スポーツ方法実習(フィットネス、器械運動、水泳、バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球、テニス、柔道、剣道、ダンス、ゴルフ、陸上競技、フェンシング、バドミントン、 ●スポーツ健康科学特殊講義 S(海外フィールドワーク科目)	●スポーツ指導法実習(フィットネス、器械運動、水泳、バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球、 ●スポーツ健康科学応用演習	ウォータースポーツ、スキー、ニュースポーツ、野外活動など) テニス、柔道、剣道、ダンス、スキー、ゴルフ、バドミントン、陸上競技 など)	
隣接科目	●スポーツ健康科学のための自然科学入門 A ●スポーツ健康科学のための自然科学入門 B ●現代社会論 ●児童福祉論Ⅰ ●児童福祉論Ⅱ ●福祉社会論 ●発達と学習の心理学	●生物学 ●学習心理学(学習・言語心理学Ⅰ) ●生理心理学(神経・生理心理学) ●学校心理学(教育・学校心理学) ●健康心理学(健康・医療心理学)	●生化学 ●内科学概論 ●臨床解剖学概論 ●外科学概論(病態生理学)	生命医学部および心理学部と専門科目を一部共通化し、医学・健康科学関連科目の強化が図られています。

※その他に、全学共通教養教育科目、外国語教育科目(全学共通教育科目)などがあります。

いま、ゼミが熱い! : 「ディスカッションの中から生まれる一体感。」

「アスリートと指導者」、「競技と生涯スポーツ」
人生を豊かにするスポーツのあり方を探求。

松倉ゼミ

テーマ: 「愛情、そして信頼へ・・・競技者と共にあるコーチング論」



「競技者」だけでなく「指導者」も幸せを享受出来るスポーツ界を目指して。



松倉啓太 准教授

Competence : 有能さ
Confidence : 自信
Connection : 関係性
Character : 人格

このゼミの研究テーマは「指導者としての考え方とそれに必要な知識」、「トレーニングの立案と実践」というスポーツにおけるコーチング論です。私自身が大学生やJリーグの下部組織でコーチを実際に経験したこともあり、将来そのような現場で活躍したいと考える学生たちに必要な知識や情報を伝え、支援していきたいと考えています。近年コーチングにおける考え方として「アスリート(プレーヤー)・センタード=選手自らが“考える”、“選択する”ということを中心に捉える」という考え方が広がってきております。それはプロスポーツであっても趣味で行うスポーツであっても同じで、そのスポーツを通して得られる「幸せ」を享受するには良い指導者が求められ、選手の4つの要素「4C'S」を育むことが必要とされています。それらを育むことができる指導者がきちんと評価され、スポーツに関わる「幸せ」と「生業」を得られる社会を目指したいです。

この分野の研究では「コンテキスト」という表現を用いることがあるのですが、選手・指導者の性別や能力、競技環境や取り組み方、年齢、既往歴などが違えば指導者に求められる要素も違います。そのため私たちの研究においては唯一絶対の答えが必ずしもある学問ではないので、ゼミでは実践の場を提供すること、ディスカッションの時間を大切にしています。学生たちはゼミで学んだことを活かしてスポーツに関わる仕事に就いてくれるといいですが、そうでなくとも社会や企業で、そして家庭で人を育てる機会や場面はたくさんありますので、その中でゼミでの学びを活かしてくれれば・・・と思っています。昨年のサッカーW杯での日本代表の姿はサッカーファンだけでなく、すべての日本人にそれだけの興奮と感動を与えてくれました。そのような力がスポーツにはあり、それをコーチング論を学ぶことで支えることが出来れば嬉しいです。

田附ゼミ

テーマ: 「スポーツとジェンダー」



「ありのままの自分でいられる」
そんな社会づくりのために
ゼミでの学びを生かしたい。

スキャンラン シヤノン さくら

2年次生春のドイツ留学中に、そのとき、ドイツに滞在中だった田附先生と出会い、それが縁で先生のゼミに入ろうと決めました。ゼミで私が選んだテーマは「スポーツとジェンダー」。LGBT(セクシャルマイノリティ)のアスリートが知人にたくさんいて、カミングアウトできずにチームをやめるなど問題が生じていたからです。同志社大学体育会で匿名アンケートを実施するなど、いま研究を進めています。ゼミの時間はとても自由で楽しく、将来はここで学んだことを生かして、カウンセラーなど人々の心の重荷を軽くする仕事に就ければと願っています。

若原ゼミ

テーマ: 「筋肉活動への科学的アプローチ」



実験を通して学んだのは
「科学的アプローチ」と
「チームワーク」。

佐伯克至

若原ゼミの特徴は、徹底した実験主義です。学内にいる豊富な機材を使って、様々な観点から「筋肉」を対象とする実験に取り組んでいます。ゼミ生みんなが協力しながら実験に当たるので、ゼミのチームワークは抜群です。ここでの学びはスポーツの種目や競技レベルに合わせたトレーニング方法の開発、健康長寿のための運動実践として社会に還元されますが、私自身は保健体育の教師を目指しており、大学での学びを母校への恩返しにつなげたいと思っています。



伊藤篤起

幼いころから野球・バスケットボール・陸上などスポーツが好きで興味をもったいろいろなスポーツをして来ました。ただ、自らがプロのアスリートを目指すまでには至らないことは自分でもわかっていたので、大学受験の時に今度は「支える側」として好きなスポーツに関わりのある学びの場を探中で、この学部を選びました。

1・2年時のスポーツ健康科学の基礎を学ぶ中で、自分はどのようなポジションでアスリートを支えていきたいのかを考え「指導者を目指したい」という目標の中で現場での経験も豊富な松倉先生の「コーチング論」をゼミに選びました。学生主導のゼミは課題を見つけ、それを解決するための実験や実践、その結果を発表するプレゼンテーションするという流れのロールプレイングを通して、共に取り組むグループの仲間の考えを知ったり、時には意見をぶつけ合うこともあります。また、グループ内だけでなく仲間の経験も共有することが出来ることは、得られるもの

が多いです。

ゼミを通して私が感じたのは「コーチング」とは「子育て」に似ているように思う点です。授業の空いた時間を利用したアルバイトでは、週に三日ほどスイミングスクールで子供たちを指導しているのですが「コロナ禍」というこれまでにない環境の中で、子供たちも目に見えないストレスを抱えているようなところも見受けられ「心」と「運動・スポーツ」の関係を目の当たりにすることもあり、子供たちへ接する上でゼミで学んだ知識が活かされているように感じます。「アスリート」へも「子供たち」へも何より大切なのは「愛情」であり、それは必ず相手へも伝わります。そこから「信頼」が生まれ、技術的要素へと発展していくように考えます。人が幸せになる、人を幸せにする・・・それはやがて自分に帰って来ると思います。このゼミで学ぶ「コーチング論」はスポーツはもちろん、社会のさまざまな場面で私の大切なバックボーンを形成してくれています。

スポ健 PICKUP!

1 インターンシップ
演習

予想以上に得るものが多かった!
肌で感じる会社の雰囲気や、
就活へのやる気が高まりました。

自分で選んできたスポーツや健康にかかわる企業において、一定の基準を満たしたインターンシップに参加し、報告・申請を行うと大学の単位として認定される科目です。大学では学べない、実社会で貴重な経験を積むとともに、修学の目的が明確になり、キャリアプランの設計に役立ちます。

2 ウォーター
スポーツ

心身のリフレッシュを体感しながら
学ぶのは自然と向き合う冒険心。
自然を克服する達成感忘れられません。

実技科目「スポーツ方法実習」ではテニスやサッカーなど様々な種目を設置しています。中でも人気の「ウォータースポーツ」では、琵琶湖のBSCウォータースポーツセンターでディンギー(ヨット)、カヤックやウインドサーフィンなどの実習をします。



いま、ゼミが熱い! : 「学年を越えた縦ゼミが学生を成長させ、研究を深化させる!」

未知なる病や超高齢社会にどう立ち向かうか
いま求められる運動の健康メカニズムを探求する。

/ 同志社大学スポーツ健康科学部【公式】

右のQRコードをスキャンして
アクセスして下さい。

海老根ゼミ

テーマ:「スポーツと栄養を切り口に健康へアプローチ」



高橋希実

中学からはじめた少林寺拳法。片道約2時間の通学ということもあり、遅い日は部活を終えて家に帰ると12時近くになることもありますが、目標にしていた全日本学生大会での優勝を果たすことが出来、競技生活の大きな節目となりました。とは言え、大学に進んだ以上は部活一辺倒では意味がありませんので、自分の中で「文武両道」という誓いを立てていました。スポーツ栄養学を研究テーマとする海老根ゼミを選んだのは、子供の頃に抱いていた「看護師になりたい」という思いの延長線上にある「健康」に興味に移り、スポーツと栄養の関係についてより深く学びたいと思ったからです。海老根ゼミは三年次生、四年次生、そして院生を混じえた「縦ゼミ」という形式なのですが、学年を越えた闊達なディスカッションがあります。専門研究以外にもゼミの中で「ほめほめ会」と称する時間があり、相手の良いところを褒め合うことで自分では気づかなかった点に気づかされ、自分を再発見する良い機会になっています。また、ゼミ活動の中で企業との共同研究もあり、企業の方とやりとりするメールを見て「こうした方がいいよね」と先生が文章や言葉選びなどについて導くように適切なアドバイスをしてくださるのは、これから社会に行く私たち学生にとって、とても勉強になります。将来については、はじめは食品メーカーを志していましたが、いまは化学メーカーの素材開発が目標です。何にでも「化ける」ことが出来る素材・・・そんな素材の持つ力に、自分自身の挑戦と成長を重ね合わせているのかもしれない。

大学の学びは、これまでの小学校・中学校・高校のように与えられるものではありません。先生方は広く、深いたくさんの引き出しを持っているので、どんなことでも自分から積極的に学びたいという意思表示をしていくことが大切です。それがあれば先生方は思う以上のものを学生に与えてくれます。

研究を通じた「人間形成」・・・そのための良き伴走者として。



海老根直之 教授

私のゼミでは「栄養学」という分野の中で、特にスポーツとの関係に着目した「スポーツ栄養学」を取り扱っています。もう少し詳しく言うと「エネルギー代謝」を中心とした研究テーマに据えています。私自身が学生時代に縁あってこの分野の第一人者の先生に出会い、指導を受ける中で徐々に関心を高め、社会的意義と奥深さを感じ、現在ではライフワークとなりました。この出会いがなければ留学することもありませんでしたし、他の道を歩んでいたに違いありません。実は小学校の教師になることが私の目指すところだったのですが、どういうわけかこうして今は大学の教壇に立たせてもらっています。そんな経緯もあり、現在では研究を学びの最良のツールと位置づけ、研究活動を通じた学生たちの人間形成こそが、このゼミで私が果たしたい役割です。

ゼミの特徴として「縦ゼミ」という形式で、三・四年次生、そして院生と一緒に学ぶという点が挙げられます。先輩の研究手法や取り組み姿勢を肌で感じ取れるだけでなく、研究テーマが継承・深化され

ていくことは、学問として有意義で価値あることです。三年次生にとっては先輩が同席するわけですから油断できない瞬間がふんだんにあると思います。けれども、学生からは相互作用による成長の勢いを感じます。ゼミ生たちの好奇心や成長に、むしろ私が追い立てられることもあります。それは嬉しい限りです。また、このコロナ禍の中でZoomを使った学習スタイルが生まれ、ゼミの場に卒業生が気軽に参加できる土台も生まれました。これは在校生・卒業生の双方にとって新鮮で貴重な時間を提供してくれています。幸せな時間が過ごせたからでしょうか、学生たちが社会人となった後も縦ゼミの繋がりを大切にしてくれることには感謝しています。エビゼミでの研究や学びにはそのまま社会で役立つ内容が沢山含まれています。ただ、学生たちはゼミの仲間や先輩らと共に切磋琢磨したことで「上限のない可能性」を手に入れていますので、人々が幸せになる社会に力強く貢献してくれることを疑わずに送り出せています。

柳田ゼミ

テーマ:「チアダンスの持つ健康効果」



大好きなチアダンスを通して
人々の幸福に貢献していきたい・・・
それが私の研究であり、目標です。

増井里真

小学生の頃からチアダンスを学んで来た私は、チアの要素を活用して健康になる方法、特に高齢者福祉に役立てる方法を研究したくて、柳田先生のゼミを選びました。チアにはスタンツ(組み体操のようなチアの技)、ダンス、コール(かけ声)、表情(笑顔)の4つの要素がありますが、私が注目しているのは「笑顔」。これまで触れられることが少なかった「チアの笑顔」の健康効果を立証し、チアを通してさまざまな環境にある人々の健康作りにも寄与しながら、自分自身が踊ることも続けたいと思っています。将来チアの部活の指導もできるように教職課程も履修しています。

石井ゼミ

テーマ:「現代スポーツと健康長寿」



情報を集め、分析・加工し、発信する。
ゼミ内でのプレゼン機会が
私を成長させてくれました。

横山琴野

私の選んだ厳しくも人気のある石井ゼミでは、年齢や性別、目的などに合わせ、その人のためのより効果的な運動のあり方・生活のあり方を導き出すことを研究の目的とし、他大学との共同調査も行っています。調べることも多い授業の中では、調査対象に多角的にアプローチすることの大切さを強く学びました。ゼミでは自らの研究を発表する機会も多いので、情報収集力やパワーポイントの使い方などを通して養われたプレゼン力を今後の自分の武器にしていければと思っています。

スポ健 PICK UP!

3 卒業研究
発表会

お互いに切磋琢磨し、
寝る間も惜しんで仕上げた論文。
最高潮の緊張感でプレゼンに臨みます。

最終学年では自身の興味あるテーマを掘り下げ、4年間の学びの集大成として卒業論文(卒業研究)を作成します。実施した卒業研究の内容について、ポスター発表または口頭発表の形式で各自がプレゼンテーションを行います。 2019年度発表会の様子▶

4 フィールドワーク
(現地調査)

現地には本や講義ではわからない景色が
たくさんありました。

しまなみ街道でのスポーツツーリズムの調査(二宮ゼミ)や大阪の長居球技場でのスタジアム運営のインタビュー調査(庄子ゼミ)など、マネジメント領域のゼミで実施されます。計画・準備・実施のプロセスを通して社会人として必要な力を身につけます。



いま、ゼミが熱い! : 「考える前に、まずやってみる——そこに意味がある。」

誰もが共にスポーツを楽しむこと
それはスポーツの価値を高め、社会生活を成熟させる。

河西ゼミ テーマ: 「自ら体験することからはじまる、障がい者スポーツという学び。」



※撮影時のみマスクを外しています。



佐竹優悟

全力で打ち込める何かを探していた自分でしたが、姉の背中を見てはじめた射撃競技の大会成績もあって、高校卒業に際して警視庁への採用通知を手にしたものの「自分自身の知見をもっと広めたい」その思いを胸に選んだのが、スポーツ健康科学部での学びでした。三年次のゼミ選びは本当にいろいろと悩みました。結果的に友人について行く形で選んだ河西ゼミでしたが、いまは私にとって「正解だった」と胸を張って言えます。ゼミでは「障がい者スポーツ」について学んでいくのですが、その入口は座学ではなく、まず自らが体験することからはじまります。車椅子バスケットや車椅子バドミントン、これまで触れることのなかった「車椅子」という器具を使って見えてくるスポーツの世界は、いままでとは違うものでした。中でも「ポッチャ」は障がいを持つ人も、持たない人も同じ土俵で競技をすることが出来、ついつい授業を忘れてみんな熱中しています。河西先生はこの「スポーツとしての面白さ」を理解した上で、障がい者スポーツ

のおかれている現状を学生に伝えたいのだと思います。現在、障がい者スポーツセンターでアルバイトをしているのですが、そこでの事業の一環である「放課後等デイサービス」を卒論のテーマにしようと考えています。世間では、障がい者が社会に「溶け込めていない」ような表現や雰囲気が見えられますが、そうではなく「溶け込ませない」状況があるように感じています。放課後等デイサービスを利用する子供たちがスポーツやレクリエーションを通して共生出来る社会をつくる……このゼミで学んだことを少しでも社会のために役立てたいというのが私の思いです。大学は「どこで学んだか」ではなく「何を学んだか」です。ここで培った、一つの視点にとらわれず、いろいろな視点からモノゴトを見れる力は、この先どんな分野に進んだとしても私という人間のバックボーンとして役立つものと信じています。

自ら体験することで見えてくる世界——「疑問」を持つことの大切さ。



河西正博 助教

私自身の障がい者スポーツとの出会いは当時、在籍していた福祉系の学部の授業で2000年に開催されたシドニーパラリンピックの「車いすバスケットボール」の映像を見た時に始まります。きっかけは単純に「カッコイイ」というところだったのですが、そこから「福祉」と「スポーツ」のあり方に関心を持つようになり、学内で車いすバスケのサークルを作り、実際にプレーや運営に携わることで関心はさらに深まりました。シドニーから東京まで約20年の歳月を経て、表面上の関心は深まっているのですが実際に競技や選手に接するような機会は少なく「パラリンピック」や「障がい者スポーツ」という言葉は知っていても、それを体験した方はごくわずかです。それを現実的な関心はまだ高いとは言えないのが現状です。それを変えていきたい……そこが私の研究であり、活動の根本的な部分です。ゼミの学生には座学だけでなく、自らの体験を通して学んで

ほしいと考え、ポッチャや車いすバスケ、パラバドミントンを取り入れています。私がそうであったように、まずは「やってみて楽しい」を入口にし、そこからその楽しさと共にある障がい者スポーツの抱える課題を見つけ、それらを解決していくための学びを大切にしています。その中で学生にはいろいろなことへ「疑問をもってほしい」と思い、敢えて必要以上の予備知識を与えなかったり、事前の段取りも最小限にして障がい者スポーツの現場に立たせるようにしています。それは「自分なりに考える」という姿勢を培ってもらうためです。「障がい者スポーツ」という職種はそれほど広いわけはありませんので、学生はここでの学びを直接的に社会で活かす機会は少ないかもしれません。けれども、この社会にはいろいろな人たちがいることを知り、学ぶことでまさに「障がい」という壁を壊していくような社会貢献のできる人物になってくれることを願っています。

庄子ゼミ テーマ: 「スタジアムの持つ可能性の探求」



ビジネスとしてスポーツを支える
いままでなかった視点を得ることで
自分自身も大きく成長していける。

石井佑哉

スポーツには「する」「観る」以外にそれを「支える」、スポーツ産業としての側面があることを知り、特に面白かったのはスタジアム。スポーツをする場であり観る場でもあります。欧米では試合を観ながら食事できるレストランがあったり、試合のない日でもイベントや飲食など交流の場として付加価値の高い施設だからです。フィールドワークで訪れた亀岡の京都スタジアムで、日々実際に運営されているスポーツ産業の最前線やそこで働く人たちに接し「生きた勉強」ができたことを将来に活かしたいと思っています。

二宮ゼミ テーマ: 「スポーツマーケティング」



実体験を通して
見えなかったものが見えてくる。
それがフィールドワーク。

岡嶋 彩

二宮ゼミでは、社会におけるスポーツの位置づけや役割が大きく変化中、「参加者」と「観戦者」の双方を調査研究の対象とし、スポーツ消費者行動の理解をベースにスポーツ組織がより効果的に商品・サービスを提供していく仕組みを考えていきます。その中で特に重要なのがフィールドワークです。私自身も参加したフィールドワークにおいて事前に集めた情報や資料以上に、現場でしか得られない貴重な発見があることを学び、自身の研究テーマに広がりを与えてくれました。

スポ健 PICKUP!

5 教職課程

人が成長していく過程を見守り、寄り添い、支えたい。
保健体育教師としての将来には
無限の可能性があると思う。

卒業後、教員になることを希望している人は、【教職課程】に登録し、所定の科目・単位を履修することで、
・「中学校教諭一種免許状(保健体育)」
・「高等学校教諭一種免許状(保健体育)」
の教員免許取得が可能です。

6 資格

大学での学びを活かしてそのまま資格に。
将来はスポーツで
社会を支えるひとになりたい。

所定の単位の修得で、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者、健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士、日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(初級、中級)の資格を取得できます。
※一部、検定試験合格が必要な資格もあります。



林 希菜 Kina Hayashi
近大附属高等学校 出身

watashi no 100%/1day



- 課外活動: 体育会水泳部(バタフライ)
- お寿司、お肉...スイーツも
- いまの目標: 最後のインカレで優勝!

自分の目指すべき道を 時間をかけて見つけていきたい。

幼いころから水泳をやっていた自分だったので、大学選びではのびのびと水泳に取り組めるところが希望でした。また、身近な先輩がスポーツ健康科学部に入学され、その姿も見ていました。入学して「ON」と「OFF」の切り替えがしっかりとしている校風を肌で感じ、ここを選んだことに満足しています。

ただ、入学がコロナ禍と重なり、1・2年次はほぼオンライン授業となってしまう、楽しみにしていたような大学生活のスタートとはいきませんでした。なので通常の授業に戻ったいま、新鮮な気持ちで学生生活を送っているところもあります。練習の拠点が大阪のため、大学と練習場の往復に時間を要し、なかなか自由な時間をつくるのが出来ませんが休日や授業が終わった後、今出川校地へシャトルバス



で出掛け、食事やショッピングを友達と楽しんでいます。将来についてはまだ漠然としています。興味を持ったものには夢中になるタイプなので、じっくりと考えていきたいと思っています。

Student Voice 私の同志社ライフ 充実度100%



末光 琴梨 Kotori Suemitsu
福岡県立修猷館高等学校 出身

watashi no 100%/1day



- 課外活動: 陸上サークル(短距離)
- アルバイト: フィットネスクラブ
- 将来の夢: 「誰かを支える仕事」に就きたい

故郷が恋しくなることもありますが いまは大学生活をエンジョイしています。

生まれ育った福岡を離れ初めての一人暮らしで、両親のありがたさを感じています。高校時代「競技」として陸上に向かい合ってきた私にとって、スポーツ健康科学部はスポーツだけでなく、健康という面も学べる点や時間割の自由度などが入学の動機となりました。インターハイを目指し過度のトレーニングや自分自身にプレッシャーを課してしまい、結果として体調を壊し競技スポーツを離れることになりましたが、いまはサークル活動として陸上を楽しんでいます。

そのような経験もあり、スポーツに限らず「支える側」の視点を授業を通して学び、就職先は「健康」を企業理念に掲げるような企業を目指したいと思っています。ここでの授業には1年～4年次生まで学年



を越えたスポーツ実技の授業が設けられているので、いろんな人との出会いがあったり、お互いの経験を共有・共感し合えたりすることで、学生同士の交流もあり、それが私自身を大きく成長させてくれているように感じます。

施設紹介 Facilities

《最先端の教育・研究設備が探究心をバックアップ》

京田辺キャンパス内の「磐上館(スポーツ健康科学部の研究棟)」には、最先端の「スポーツ」と「健康」に関する測定機器や実験室が設置されています。専門知識豊富な教員の指導のもと、学生は授業やゼミ、自らの研究テーマに沿ってこれらの機器や実験設備を活用し、日々研鑽に努めています。 ※2020年度以降の写真は感染対策に配慮した上で撮影を行っています。



スポーツ・バイオメカニクス実験室



トレーニング科学実験室 I



トレーニング科学実験室 II



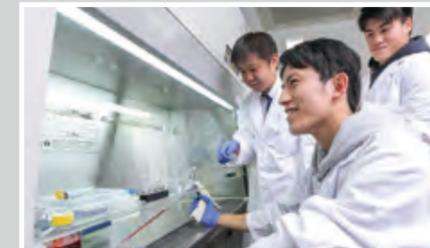
多目的実習室



コンディショニングルーム



運動生理学実験室 II



細胞培養実験室



分子生物学実験室



運動制御実習室

《同志社のアスリートが集う京田辺キャンパスは教育・研究に最適》

京田辺キャンパスには、ラグビー部をはじめとする強豪運動部がトレーニングに励むスポーツ関連施設が集約されています。この環境が学生アスリート達とスポーツ健康科学部の双方に相乗効果を生み出しています。



ラグビー場



トレーニングルーム



デイヴィス記念館(メインアリーナ)

キャリアデザイン 「スポーツを仕事にする」という生き方。

スポーツ健康科学部での学びを、社会で生き抜く力に。スポーツ健康科学部では自主性を重んじながらも、各自が修得した専門性を活かして社会に貢献できるよう、進路選択のためのバックアップ体制を強化しています。大学のキャリアセンターによるきめ細かい就職支援に加えて、スポーツ健康科学部独自の講座・セミナーなど、さまざまな方面から学生一人ひとりに寄り添ってサポートします。

■ スポーツ健康科学部独自のキャリアセミナー

本学部では、全学年を対象とした年数回のキャリアセミナーを実施しています。株式会社マイナビのご協力による「エントリーシート・面接対策講座」「本選対策総まとめセミナー」など、就活の時期にあわせ、タイムリーな情報を提供します。また、本学部卒業の社会人や大学院生を招いた講演会も開催。年齢の近い社会人や大学院生の生の声が、自分の将来の姿をイメージしはじめる絶好の契機となります。

■ 学生一人ひとりへの個別面談

1～3年生各学期終了時の単位修得状況に応じて、教員による個別履修指導を行います。学生一人ひとりと面談し、学習に関わる事から、クラブやアルバイトをふくめた生活の状況についてまで助言します。特に1年生には大学院生によるチュートリアルセミナーを毎週実施し、マンツーマンで指導。わからないことを質問したり、学習計画のアドバイスを受けるなどして以降の学業に活かします。

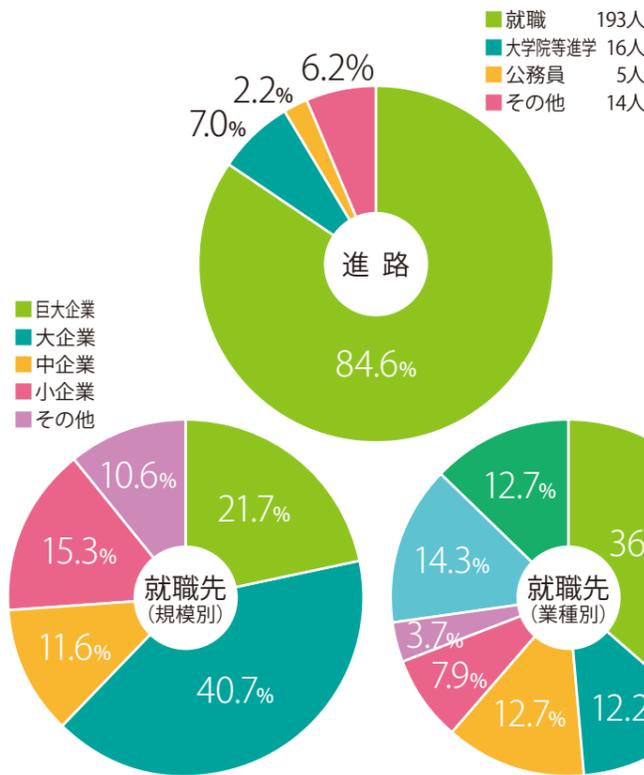
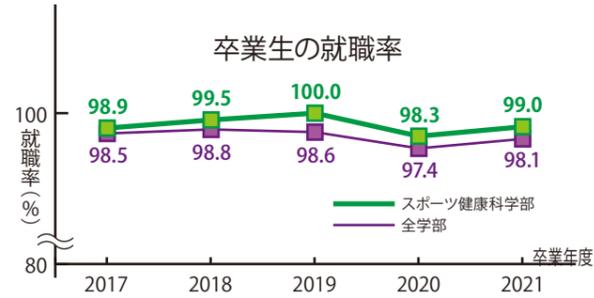
■ オンラインのデータベースを完備

本学キャリアセンターでは、各種セミナーの開催、対面・Webによる個別相談などを通して学生の就職活動をきめ細かくサポートします。センター内資料室では企業情報や就職関連書籍など多くの資料の閲覧が可能です。キャリア支援システム「e-career」は、求人・採用試験情報、就職状況情報のほか様々な独自情報をタイムリーに提供するWebシステムで、就活の貴重なツールとして利用できます。

■ グローバルに活躍したい方へ

将来、外資系企業や国際機関で働きたい、語学力を活かして働きたいと考えている学生を対象に、キャリア形成を目的としてグローバルキャリアフェア（7～9月頃実施予定 全学年参加可能）を開催しています。グローバルなフィールドで活躍中の社会人による講演会など、さまざまなセミナーやイベントを用意しています。1年生も参加でき、有意義な学生生活を送るヒントを得ることができます。

《数字でみる就職状況：2021年度》



進路・就職先 本学部は2012年3月に第1期生を輩出しました。以下は現在までの主な学生の内地企業一覧を記載しております。(主な進路・就職先。順不同、企業名は就職当時の名称)

- メーカー**
 アディダスジャパン、デサント、ミズノ、ヨネックス、アシックス、オムロンヘルスケア、タニタ、トヨタ自動車、三菱自動車、三菱電機、パナソニック、日本電気、富士通、オリンパス、京セラ、島津製作所、ヤマハ発動機、クボタ、神戸製鋼所、旭化成、帝人、ワコール、ニチコン、第一三共、大塚製薬、エーザイ、久光製薬、ツムラ、ロート製薬、小林製薬、サントリーホールディングス、キリンホールディングス、アサヒビール、アサヒ飲料、サントリー食品インターナショナル、カゴメ、日清オイリオ、味の素、キッコーマン、キューピー、明治、花王カスターマーケティング、ライオン、ジョンソン・エンド・ジョンソン、サンスター、日本製粉、山崎製パン、森永乳業、伊藤園、パンダイ 他
- マスコミ・情報通信**
 NTT西日本、ソフトバンク、KDDI、ヤフー、NTTデータ、日本放送協会 (NHK)、静岡朝日テレビ、九州朝日放送、朝日新聞社、報知新聞社、京都新聞社、博報堂、リクルートキャリア、マイナビ、サニーサイドアップ、ジャパンウェイブ 他
- 流通**
 三井物産、伊藤忠商事、丸紅、住友商事、アルペン、ゼビオ、JR西日本伊勢丹、高島屋、イオン、ローソン、ニトリ、ヨドバシカメラ 他
- 教育・学習支援**
 東京都保健体育教諭、神奈川県保健体育教諭、京都府保健体育教諭、横浜市保健体育教諭、神戸市保健体育教諭、堺市保健体育教諭、近畿大学、聖心女子学院、四天王寺学園 他
- 公共・その他**
 東京都庁、愛知県庁、石川県庁、滋賀県庁、国土交通省、国税専門官、出入国在留管理庁、海上保安庁、京都市、大阪市、天津市、城陽市、大阪府警、京都府警、愛知県警、岡山県警、山口県警、東京消防庁、大阪市消防局、京都市消防局、富山市消防局、日本中央競馬会 (JRA)、日本赤十字社 他
- 大学院進学**
 同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科、同志社大学大学院総合政策科学研究科、同志社大学大学院生命医科学研究科、同志社大学大学院脳科学研究科、筑波大学大学院人間総合科学研究科、大阪市立大学大学院生活科学研究科、九州大学大学院システム生命科学府 他
- 金融**
 三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ、りそなホールディングス、関西みらいフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行、三菱UFJ信託銀行、三井住友信託銀行、池田泉州銀行、関西アーバン銀行、京都銀行、滋賀銀行、北陸銀行、南都銀行、福岡銀行、京都中央信用金庫、日本生命、住友生命、東京海上日動あんしん生命、あいおいニッセイ同和損保、東京海上日動火災保険、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、SMBC日興証券、三井住友海上火災保険、野村證券 他
- サービス**
 セントラルスポーツ、ルネサンス、三井物産、丸紅、JR東海、JR東日本、JR西日本、阪急電鉄、関西電力、全日本空輸、ANA関西空港、日本通運、西武ホールディングス、出光興産、オリックス、住友不動産、阪急不動産、東急リハビリ、近畿日本ツーリスト、HIS、クラブツーリズム、総合警備保障、セコム、吉本興業 他



目標を持つことは
大学での学びを豊かにしてくれます。

野々村 柁 さん
木津川市立木津南中学校
ソフトボール部顧問
2020年卒 京都府立鳥羽高等学校出身

卒業生からのメッセージ — message from Graduates —

まずは広く、そして深く・・・
それは学問にも仕事にも共通する。

伊後 達矢 さん
株式会社アシックス
コアパフォーマンススポーツウェアフットウェア統括部
開発部コート開発チーム
2018年卒 同志社国際高等学校出身



卒業し早や数年になりますが、実習や実験に明け暮れ「正解を導き出す方法はひとつではない」ことを学んだ大学時代のことをいまでもよく思い出します。入社後、配属されたのは東京で、長野エリアの営業を担当しました。自社製品のすべてを扱うここでの仕事は、新入社員の私にとって会社全体を俯瞰する良い機会となりました。その後、幼少期の海外生活で培った語学力を活かしたいという希望が叶い、現在は神戸の本社で海外モデルも含むインドア系シューズの企画・開発を担当しています。同じ種目でも国や地域によって求められるものは様々ですが、それは世界を相手に仕事をしている醍醐味でもあります。プライベートではいまま陸上競技を続けているので、本社勤務になつてからは大学でトレーニングをさせていただいて、学生のみなさんとの交流が製品作りへの良いフィードバックにもなっています。少子高齢化の時代ですが、生涯に渡ってスポーツを身近な存在として楽しめる社会づくりのため、学部での学びを役立てていきたいと考えています。

※所属の部署は取材当時のものです。

■ 教員紹介

スポーツ健康科学のスペシャリストが
学生の志に向き合い「広く、深く」目指すべき目標へ導きます。

Member of Faculty



■ 新井 彩(准教授)
Aya Arai
《研究分野》
トレーニング科学/バイオメカニクス
《主な担当科目》
トレーニング論/基礎実習
スポーツパフォーマンス1



■ 海老根 直之(教授)
Naoyuki Ebine
《研究分野》
スポーツ栄養学/栄養学
《主な担当科目》
スポーツ栄養学
スポーツ方法実習・同指導法実習(バドミントン)



■ 遠藤 華英(助教)
Hanae Endo
《研究分野》
スポーツを通じた国際協力
《主な担当科目》
スポーツ・健康の科学C
スポーツパフォーマンス1



■ 藤澤 義彦(教授)
Yoshihiko Fujisawa
《研究分野》
スポーツ測定評価・方法
《主な担当科目》
スポーツ測定評価論
競技者育成システム論



■ 松倉 啓太(准教授)
Keita Matsukura
《研究分野》
スポーツにおけるコーチング
《主な担当科目》
コーチング論/教育実習A・B・C
スポーツ方法実習(サッカー)



■ 中村 康雄(教授)
Yasuo Nakamura
《研究分野》
スポーツ・バイオメカニクス
《主な担当科目》
スポーツ機能解剖学/スポーツ・バイオメカニクス
スポーツ統計情報処理/スポーツ健康科学のための自然科学入門



■ 二宮 浩彰(教授)
Hiroaki Ninomiya
《研究分野》
スポーツ・マーケティング
《主な担当科目》
スポーツ社会学/スポーツマーケティング論
スポーツ方法実習(ウォータースポーツ)



■ 庄子 博人(准教授)
Hiroto Shoji
《研究分野》
スポーツビジネス
《主な担当科目》
スポーツ・マネジメント論
スポーツビジネス論



■ 福岡 義之(教授)
Yoshiyuki Fukuoka
《研究分野》
環境生理学/生理人類学
《主な担当科目》
生理学/環境生理学



■ 北條 達也(教授)
Tatsuya Hojo
《研究分野》
スポーツ医学
《主な担当科目》
スポーツ医学B(外科系)/リハビリテーション医学
生活習慣病概論



■ 石井 好二郎(教授)
Kojiro Ishii
《研究分野》
運動処方
《主な担当科目》
発育発達と老化/スポーツ健康科学論入門
健康運動論



■ 石倉 忠夫(教授)
Tadao Ishikura
《研究分野》
スポーツ心理学
《主な担当科目》
スポーツ心理学
メンタル・トレーニング論



■ 高倉 久志(准教授)
Hisashi Takakura
《研究分野》
運動生化学
《主な担当科目》
スポーツ健康科学のための自然科学入門/基礎実習
スポーツ方法実習(陸上競技)



■ 竹田 正樹(学部長/教授)
Masaki Takeda
《研究分野》
スポーツ生理学
《主な担当科目》
スポーツ生理学
スポーツ方法実習・同指導法実習(スキー)



■ 田附 俊一(教授)
Shunichi Tazuke
《研究分野》
スポーツ運動学
《主な担当科目》
スポーツ運動学
スポーツ方法実習・同指導法実習(陸上競技)



■ 土屋 吉史(助教)
Yoshifumi Tsuchiya
《研究分野》
筋骨格系恒常性維持に貢献する臓器連関
システムの解明
《主な担当科目》
スポーツ・健康の科学A/基礎実習



■ 岩田 昌太郎(准教授)
Shotaro Iwata
《研究分野》
良い保健体育授業の創造と教師の専門性開発
《主な担当科目》
スポーツ教育学
保健体育科教育法A1・A2・B・C



■ 井澤 鉄也(教授)
Tetsuya Izawa
《研究分野》
スポーツ生化学
《主な担当科目》
スポーツ生化学/生理学
スポーツ健康科学のための自然科学入門



■ 上林 清孝(准教授)
Kiyotaka Kamibayashi
《研究分野》
神経生理学
《主な担当科目》
身体運動制御論/基礎実習
スポーツパフォーマンス1



■ 河西 正博(助教)
Masahiro Kawanishi
《研究分野》
障害者スポーツ論/障害学
《主な担当科目》
障がい者スポーツ論
障がい者スポーツ指導論



■ 若原 卓(准教授)
Taku Wakahara
《研究分野》
バイオメカニクス/トレーニング科学
《主な担当科目》
スポーツ生体ダイナミクス



■ 柳田 昌彦(教授)
Masahiko Yanagita
《研究分野》
公衆衛生学
《主な担当科目》
公衆衛生学/学校保健/健康教育学
スポーツ方法実習・同指導法実習(剣道)



■ 築瀬 康(助教)
Ko Yanase
《研究分野》
健康科学/リハビリテーション
《主な担当科目》
スポーツマッサージ・テーピング論
コンディショニング論



■ 横山 勝彦(教授)
Katsuhiko Yokoyama
《研究分野》
スポーツ政策
《主な担当科目》
スポーツ政策論/スポーツ組織文化論
スポーツ方法実習・同指導法実習(柔道)

留学・国際交流

※各表は2019年度のもの。今後の世界情勢に鑑み、プログラムが変更または中止となる可能性があります。

■ [短期] サマープログラム・スプリングプログラム 長期休暇中に、集中的に語学を学びます。

長期休暇を利用して海外で語学研修を行うプログラムです。本学での事前授業と留学先での研修によって集中的に外国語運用能力を高めるとともに、研修先の国の文化・社会への理解を深め、国際的な視野を養います。

◆ サマープログラム

研修校・研修地	募集人数	研修期間
ヨーク大学[イギリス]	約24名	8月初旬～9月初旬
ディーキン大学[オーストラリア]	約20名	8月初旬～9月中旬
ゲルフ大学[カナダ]	約40名	8月初旬～9月初旬
アリゾナ大学[アメリカ]	約20名	8月中旬～9月中旬
セブ医科大学[フィリピン]	約30名	8月初旬～8月下旬
トンブソン・リパーズ大学[カナダ]	約30名	8月中旬～9月中旬
スタンフォード大学[アメリカ]	約10名	8月初旬～8月下旬
カリフォルニア大学デービス校[アメリカ]	約25名	8月初旬～9月初旬
コーク・カレッジ大学[アイルランド]	約15名	8月初旬～9月初旬
ロンドン芸術大学[イギリス]	約28名	8月初旬～8月下旬
ケンブリッジ大学[イギリス]	約40名	8月初旬～8月下旬
カリフォルニア大学サンディエゴ校 [アメリカ]	約30名	8月下旬～9月中旬
マルティン・ルター大学[ドイツ]	約20名	8月初旬～9月初旬
フランス＝コンテ大学[フランス]	約20名	8月初旬～9月初旬
北京大学[中国]	約20名	8月初旬～8月下旬
ラス・アメリカス大学[メキシコ]	約20名	8月初旬～9月初旬
サンクトペテルブルク経済大学[ロシア]	約20名	8月中旬～9月初旬
延世大学[韓国]	約20名	8月下旬～9月中旬

◆ スプリングプログラム

研修校・研修地	募集人数	研修期間
ホーソン・メルボルン英語学校 [オーストラリア]	約25名	2月下旬～3月下旬
ヨーク大学[イギリス]	約24名	2月中旬～3月下旬
セブ医科大学[フィリピン]	約30名	2月中旬～3月初旬
セント・メアリーズ大学[カナダ]	約30名	2月下旬～3月中旬
カリフォルニア大学アーバイン校[アメリカ]	約25名	2月中旬～3月中旬
オタゴ大学[ニュージーランド]	約25名	2月中旬～3月下旬
オークランド大学[ニュージーランド]	約20名	2月中旬～3月中旬
フライブルク大学[ドイツ]	約16名	3月初旬～3月下旬
CAVILAM(クレルモン・フェラン大学監修)[フランス]	約20名	2月中旬～3月下旬
華東師範大学[中国]	約20名	2月下旬～3月中旬
サラマンカ大学[スペイン]	約20名	2月下旬～3月中旬
慶熙大学[韓国]	約20名	3月初旬～3月下旬

■ [中期] セメスタープログラム(英語) 約4カ月間の滞在で、じっくり英語を学びます。

秋学期1セメスターのうち約4カ月間、海外で英語研修を行う留学プログラムです。春学期の事前授業で、研修先の国の文化・社会や歴史への理解を深め、秋学期に外国語教育に定評のある海外の教育機関で集中的に英語研修を受け、英語の運用能力を高めます。じっくり英語を学びたい方、長期留学を目指す方に人気のあるプログラムです。

◆ セメスタープログラム (英語)

研修校・研修地	募集人数	研修期間
ウィニベグ大学[カナダ]	約30名	9月初旬～12月下旬
ディーキン大学[オーストラリア]	約30名	8月中旬～12月中旬
ハワイ大学[アメリカ]	約30名	8月下旬～12月下旬

■ [中期] EUキャンパスプログラム 約5カ月間、ドイツの同志社大学テュービンゲンEUキャンパスで学びます。

ドイツのテュービンゲン大学内に設置した「同志社大学テュービンゲンEUキャンパス」で開講する教育プログラムです。

春学期には、ドイツ語の運用能力向上を主目的とした「ドイツ語・異文化理解EUキャンパスプログラム」、秋学期には、英語または日本語で現地の学びを深める「ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラム」を開講しています。

プログラム	募集人数	研修期間
ドイツ語・異文化理解EUキャンパスプログラム	約15名	3月初旬～8月中旬
ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラム	約15名	9月初旬～1月下旬

■ スポーツ健康科学部における国際交流

◇スポーツ健康科学特殊講義S(海外フィールドワーク科目)

約1週間の海外生活を通して現地のスポーツ事情に触れることで、国内では得ることのできない幅広い知見を身につけます。本学部の専任教員が引率するので海外経験のない学生も安心して参加できます。正課科目のため卒業必要単位にも算入されます。

これまで実施されたプログラム内容(年度毎に内容が変更します)
 ・カナダをめぐるアイスホッケー文化を体験 ・ドイツのスポーツ文化とその背景
 ・ニューヨークをめぐる最先端スポーツビジネスの視察

◇学部間協定による派遣留学

スポーツ健康科学部ではオスナブルック大学教育文化学部スポーツ運動学科(ドイツ)とテュービンゲン大学経済学・社会学部スポーツ科学研究所(ドイツ)、およびマドリード工科大学身体活動・スポーツ科学部(スペイン)と学生派遣交流協定を締結しています。留学中も本学に在籍し、留学期間は卒業に必要な4年の修業年限に算入されます。学部間の研究分野が合致した、学業上の相関関係が高い留学先なので、専門の分野をしっかりと学べます。

同志社大学の留学サポート	●各種留学説明会・イベントの開催	●留学コーディネーターによる相談受付	●派遣留学促進のための奨学金制度
	●語学テスト対策	●留学生との交流イベント	●冊子「海外留学マニュアル」の発行
		●資料コーナーの充実	

私の留学体験記



コロナ禍の中での留学ということもあり、当初の予定から半年遅れの9月に留学先のオスナブルックへ出発したのですが、正式に留学が出来るのが決まったのは2ヶ月前だったので、慌ただしく準備や手続きをしなければなりません。留学先の候補には同じドイツのテュービンゲン大学もあり、そちらには同志社大学EUキャンパスが設置されていますが、敢えて厳しい環境を求めてオスナブルック大学を選びました。でも、その厳しさは到着早々に現実のものになりました。毎年5名程度いる日

厳しくも、私を成長させてくれた留学に感謝。

本人留学生が何と私一人だけだったんです。籍を置く教育文化学部スポーツ運動科学科もその年の留学生は私一人で、普通なら留学生を考慮して英語を混じえて行われる授業もすべてドイツ語でした。少しは自信のあったドイツ語もやはりネイティブは随分違い、最初のうちは話し相手もなかなかつかず、精神的にも正直きつ感じました。ただ、それでは留学した意味がありませんので、教室やルームメイトの仲間、スポーツコミュニティに自ら積極的に話す機会を求めていくようにしました。特に地元のサッカーチームに加わったり、週5日通ったジムなど共に汗する場では言葉を越えて友達が増え、ご飯や遊びに行くようになり、いまま繋がついています。少しまとまった時間が出来ると旅行もしました。留学

中に10ヵ国を巡りましたが、そのうち8ヵ国は一人旅。その頃にはもう言葉のことは気にならなくなっていましたから不思議です。この留学を通して「失敗するのは当たり前、時にはプライドを捨てることも大事」ということを身を以て体験しました。社会人になっても「わからないことは素直に聞く」姿勢を役立てていきたいと思っています。



《児島来生》 2021年度、学部間協定での派遣留学制度でドイツ・オスナブルック大学に留学。

奨学金

奨学金には、経済的な困難を抱える学生の支援を目的とした経済支援奨学金と、学業やスポーツ、文化活動などを奨励することを目的とした奨励奨学金の2種類があります。経済支援奨学金には同志社大学奨学金(給付)をはじめとした本学独自の奨学金のほか、日本学生支援機構奨学金や民間・地方公共団体奨学金などがあります。いずれも、家族の所得や家族構成、学業の状況などから判断し支給が決定されます。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

【スポーツ健康科学部が選考・推薦する奨学金(奨励奨学金)の選考基準(2022年度の場合)】

奨学金種類	選考基準
同志社大学英奨学金(7名以内、各30万円)	●学業分野:3年次生の学業成績優秀者(累積GPAの優秀者)2名、ならびに公募によるスポーツ、文化、芸術、社会活動などの業績が優秀かつ学業成績が優れる者1名 ●正課外分野:公募によるスポーツ、文化・芸術、社会活動などの分野で業績をあげた者に対して大学全体で20名以内(学部より最大4名)
同志社大学スポーツ健康科学部奨学金(8名、各10万円)	●学業分野4名:1・2・3年次生の学業成績優秀者各1名(3年次生は2名) ●スポーツ、文化・芸術、社会活動などの分野で業績をあげた者4名:同志社大学英奨学金同分野に準じる
同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会奨学金(12名以内、各5万円)	●学業分野4名:1・2年次生の学業成績優秀者各2名 ●スポーツ、文化・芸術、社会活動などの分野で業績をあげた者8名以内:同志社大学英奨学金同分野に準じる

学費

(参考) 2024年度入学生の学費および諸費は以下の通りです。

第1年次合計	入学手続時納入必要額	学費			諸費
1,290,000	741,000	入学金	授業料	教育充実費	学会費等
		200,000	906,000	176,000	※8,000

(1) 入学金は初年度のみ徴収します。
 (2) 授業料・教育充実費・実験実習料については、各々2分の1が春学期および秋学期学費です。
 (3) 入学金手続時納入必要額とは、入学金全額と、春学期学費および諸費の2分の1です。※諸費については、教員父母連絡会費(5,000円)、学会費(3,000円)
 (4) 第2年次から第4年次の学費は下表のとおり徴収します。

学年	授業料	教育充実費
第2年次	1,106,000	176,000
第3年次	1,106,000	176,000
第4年次	1,106,000	176,000

※諸費として、学会費(第1年次と同額)、教員父母連絡会費(第1年次と同額)を毎年徴収します。また、第4年次には全学部生から校友会費を徴収します。

入試情報

【2024年度入試種別について(予定)】

入試種別	募集人数	入試概要	
一般選抜入試	90名	〈文系・文系型〉 「英語」(200点)、「国語」(150点)、「選択科目(地理歴史・公民・数学)」(150点)の3教科(500点満点) 〈理系・理系型〉 「英語」(200点)、「理科」(理科200点)、「数学」(150点)の3教科(550点満点) ※志願者は計3回「全日・理系」、「全日・文系」、「個別(理系または文系)」受験が可能です。	
		3科目方式	5名 共通テスト3科目(400点満点) 「英語」(200点)、「国語、地理歴史・公民、数学、理科から2教科2科目選択」(1科目100点)
		5科目方式	10名 共通テスト5科目(600点満点) 「英語」(200点)、「国語」「地理歴史・公民」「数学」「理科」(各100点)
		スポーツ競技力加点方式	15名 共通テスト3科目(400点満点)とスポーツ競技成績による書類審査(200点満点)の合計点(600点満点)にて判定。スポーツも勉強もアピールしたい方を迎え入れる制度です。 ※共通テスト3科目の科目の配点は3科目方式と同じ
自己推薦(スポーツ)入試	20名	各種競技スポーツにおいて全国大会での試合に正選手として出場し、優秀な競技成績を収めた者を対象とした公募制の入試制度です。	
アドミッションズオフィス(AO)方式による入学者選抜	4名	学力試験では評価できない多様な能力、大きな可能性を秘めている人材を積極的に迎え入れる公募制の入試制度です。	
海外修学経験者(帰国生)入試	若干名	海外での学修経験があり、スポーツへの強い情熱を持つ学生を迎え入れる制度です。	
社会人特別選抜入試	若干名	セカンドキャリア構築に意欲を持つトップアスリートを対象とした入試制度です。	

※この他に推薦入試(法人内諸学校、キリスト教主義学校の地域ネットワーク連携高等学校)、アスリート選抜入試、京都府立高等学校特別入試、外国人留学生入試などがあります。

「健康」は「幸せ」につながる

私の研究室で、いま取り組んでいる研究テーマは「筋肉の硬さ」についてです。

インターネットやSNSが情報源として利用される現代、そこに書きされる情報は必ずしも確かなものとは言えないところがあります。特に健康や美容というジャンルは関心が高く、注目されるがゆえに個人的な記事だけでなく、記事広告的な表現の中で検証もされていない事象が実にやかに語られているのを目にします。これは本当に危険なことであり、期待した効果が得られないどころか逆に健康を害することにもなりかねません。

私は大学院で、超音波せん断波エラストグラフィ機能を使って筋肉の硬さに関

、
かけ
がえ
の
な
い
存
在
。



する研究に取り組み、卒業後は理学療法士として直に患者さんと向かい合い、そしていま再び研究室で「筋肉の硬さ」の研究に取り組んでいます。中高齢者・アスリート・こども、それぞれ筋肉に求められる負荷も違えば、適した筋肉の硬さも異なります。正しい環境下での実験や検証によって得られた「正しい情報」を提供し、社会に貢献していきたい...それが私の研究に対する思いです。そのような思いに賛同していただける企業との産学協同の研究も始まっています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。



スポーツ健康科学部 公式YouTubeチャンネル開設!! パソコン、スマートフォン、タブレットで“Go To DOSHISHA”

/ 同志社大学スポーツ健康科学部【公式】

スポーツ健康科学部の教員が授業をわかりやすく紹介する模擬授業のほか、20以上あるゼミの中から9つのゼミ紹介、スポーツ健康科学部の施設「磐上館」などをご覧いただけます。オンラインで憧れのキャンパスライフを体験してください。



下記のURLまたは左のQRコードをスキャンしてアクセスして下さい
<https://www.youtube.com/channel/UCGTuZVDJNhPguIsoNmdNvCg>



ACCESS

京田辺校地へのアクセス

大阪方面から

◆ JR環状線「大阪」から「京橋」へ約6分→
JR学研都市線で「同志社前」へ約40分(快速利用)
→徒歩約10分

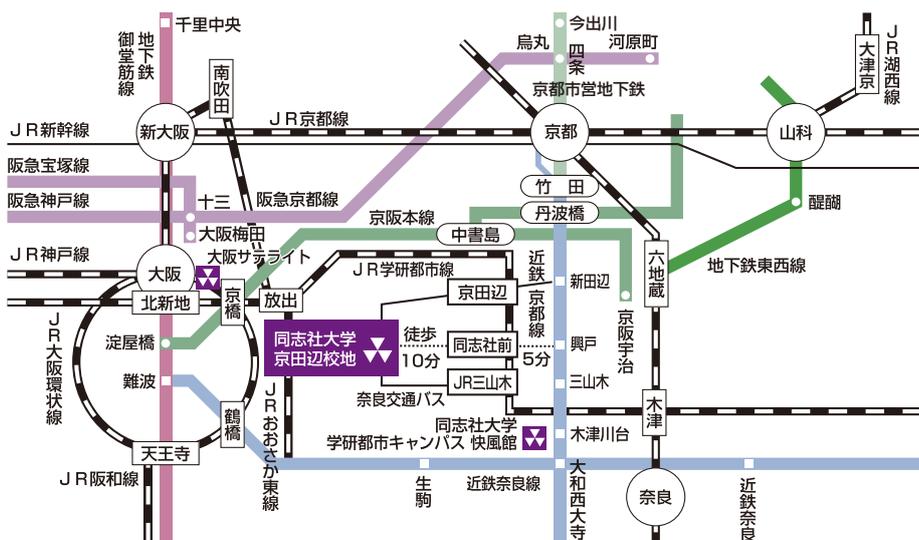
◆ JR東西線「北新地」から
「同志社前」へ約50分→徒歩約10分

京都方面から

◆ 近鉄京都線「京都」から「興戸」へ約25分
(京都～新田辺間急行利用)→徒歩約15分

奈良方面から

◆ 近鉄奈良線「大和西大寺」乗り換え、
近鉄京都線「興戸」へ約25分→徒歩約15分



同志社大学 スポーツ健康科学部

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL: 0774-65-6030 FAX: 0774-65-6029 E-mail: jt-spoj@mail.doshisha.ac.jp

<https://sports.doshisha.ac.jp/> 同志社大学スポーツ健康科学部

検索

右のQRコードをスキャンすると
学部ホームページにアクセスできます。

